

川部会報告について（案）

1. これまでの川部会の動き

第1回地域部会（H23. 1. 24 開催）

- 事務局が用意した矢作川流域圏の課題を踏まえ、今後検討したい課題を検討

意見交換WGなどによる議論

- 河川管理者の短期整備計画（概ね5～6年）のメニューとも連動した課題を「まずやってみよう課題」として設定
- 流域全体の課題として「魚の棲みやすい川づくりをテーマにした上下流問題」、地先の課題として「河川空間の利用・保全のあり方」の2つに絞り、市民提案

第2回地域部会（H24. 2. 23 開催）

「上下流問題」と「地先の課題」については、モデル地区を設定し、現地を調査しながら、できるところから取組みを行い、課題の解決手法を検討していくことで合意。

平成24年度より、上記を実行に移すため「川部会WG」を組織。

2. 今年度の川部会WGの運営方針

- 市民、関係団体、学識者、行政の有志が参加（山、海部会メンバーも参加可）
- 川部会WGは、月1回程度開催。「**本川モデル**」「**家下川モデル**」「**地先の課題モデル**」の**3モデル地区を設定**し、地区毎にワーキングを立ち上げ、検討を進める。
- 「本川モデル」、「家下川モデル」は、第1～2回WGで、各団体が抱える課題や活動内容、河川管理者の計画・構想や具体的な実施計画について情報共有した上で、今後検討する課題を設定。第3回WGでは具体的な活動の実施と今後の活動展開について話し合う。
- 「地先の課題モデル」は、2日間（11月予定）で現地調査を実施し、課題解決の検討を進める。

3. 今年度期待する成果

(1) これまでの取組みで得られた成果

- これまで課題に対する認識は個々に有していたが、共有される機会は少なかった。川部会WGの開催によって、**各モデル地区の活動団体の活動状況や河川管理者の計画等の情報共有、活動団体同士の交流**が始まっている。また、課題の背景も十分に整理されているわけではなく、課題解決に向けては、**背景情報について十分に整理**した上で検討を進めていく必要があることが共通認識として示された。

(2) 今年度期待する成果

- モデル地区ごとに意見交換や活動を実施することにより**情報共有を進め、課題解決に向けた共通認識の土壌**をつくる。
- 今後のモデルの水平展開により、流域連携のきっかけづくりとする。

1. 地域部会「川部会 WG」について

(1) 設置目的

矢作川流域圏懇談会では、矢作川流域の山・川・海地域の課題とその解決策について、市民企画会議、市民会議等の主導により、議論を行ってきました。

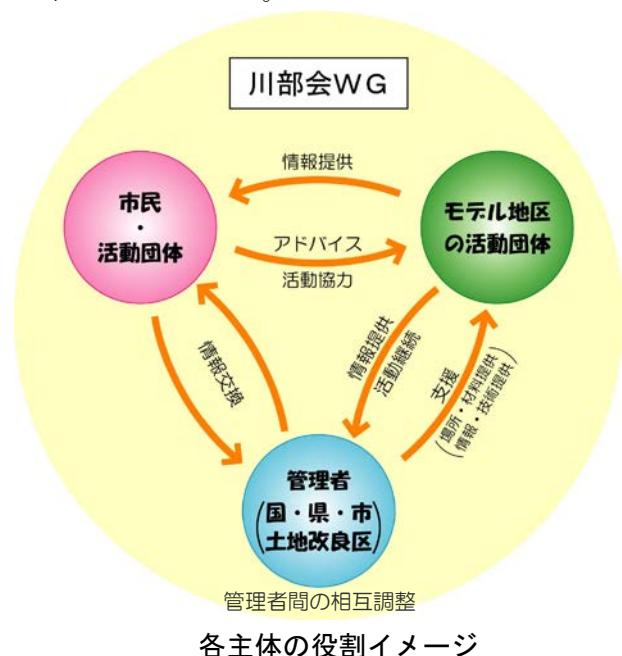
川地域について、市民会議の川部会において議論が進められ、矢作川の川の課題は広範囲に多種多様であり、優先順位等の検討を行う事は、膨大な時間が必要なため、まず、河川管理者が事業執行している**短期プロジェクトに合わせた課題などを先行して、解決策を検討すること**としました。

課題を**1.「魚の棲みやすい川づくりをテーマにした上下流問題」と2.「河川空間の利用・保全のあり方として地先の課題」**にグループ化して解決手法を検討することを「第2回地域部会」(H24.2.23)の場において提案し、合意が得られました。両者に関わる場所として「**本川モデル地区**」と支川の「**家下川モデル地区**」を設定し、後者を対象に「**地先の課題モデル**」を設定し、**3つのモデルWGを並行して進めていくこと**としました。

この提案を実行に移すため、新たに**地域部会「川部会 WG」**を組織し、**1回/月程度のWG(ワーキング)**を開催し、**市民、関係団体、学識者、行政が意見交換を行うこと**にしました。

(2) 役割分担

- **WGの進行は、地域部会座長・副座長**が、市民役員と協力して行います。
- 円滑にWGを実施するため、各WGの担当者を中心に**事前調整**を行ない、**WGは、実地+話し合いの場**とします。
- 川部会WGでの各主体の主な役割は以下のとおりとします。



【各主体の主な役割(例)】

◆モデル地区の活動団体：情報提供(活動状況・課題等)、活動実施

- ・ 自分たちの活動や課題を他の参加者に情報提供し、課題解決に向けてのアイデアと一緒にできることを話し合い、活動につなげることができる。

◆市民・活動団体：アドバイス、活動協力

- ・ 活動事例やノウハウが得られ、自らの活動へフィードバックできる。

◆管理者：情報提供(地区の計画等)、活動協力、管理者間の相互調整

- ・ 事業の相互調整、効果的な事業の発掘が出来る場として活用できる。

※対象地区を限定したモデルであるが、課題のありようと課題の構造、ノウハウなどの点で参考としたりアドバイスできるよう、当該地区にかかわらない関係者・市民も参加できるものとしている。

2. 今後のスケジュール（案）

- 月1回程度の開催を基本に、これまでの活動と今後の活動スケジュールは以下のとおりである。

【スケジュール（案）】

- 4月21日 ヨシ植え（海部会と連携）（済）
- 5月18日 13:00~17:00 第1回川部会WG（家下川モデル1回）（済）
現地調査（管理者・市民提案）、情報共有、運営方針の確認
- 6月23日 13:00~17:00 第2回川部会WG（本川モデル1回）
現地調査（管理者・市民提案）、情報共有、運営方針の確認
- 7月15日 13:00~17:00 第3回川部会WG（家下川モデル2回）
情報共有（管理者の計画等）、検討方針の確認、対策手法の検討
- 8月3日 13:00~16:00 第1回全体会議
H24年度の取り組み方針の承認
- 8月 第4回川部会WG（本川モデル2回）（予定）
対策手法の検討または実証、意見調整
- 9月 第5回川部会WG（本川モデル3回）（予定）
対策手法の検討または実証、意見調整
- 9月中旬 第4回 市民会議（予定）
H24年度取り組みの中間報告
- 10月 第6回川部会WG（家下川モデル3回）（予定）
リバーキーパーズ「魚のすむ川・水路を作ろう」に参加し、その後、WGとして、対策手法について意見調整
- 10月中旬 第3回 川地域部会（予定）
各部会の中間総括の実施（年度末の3年目総括に向けて）
- 11月 第7, 8回川部会WG（地先モデル1, 2回）（予定）
2日間バスツアー（現地+話し合い）
- 12月 第9回川部会WG（予定）
川部会WGの活動の振り返り（3モデル）
- 2月上旬 第4回合同地域部会（予定）
3年間の活動を総括（全体会議へ提案）
- 2月下旬 第2回 全体会議（予定）
3ヶ年の総括、H25年度以降3ヶ年の運営方針の承認

3. 地域部会「川部会 WG（家下川モデル）」について

(1) 検討方法

支川から見た「魚の棲みやすい川づくりをテーマにした上下流問題」を対象に家下川をモデル地区に設定し、情報共有や解決手法の検討を行います。また現地での活動におけるノウハウや地域住民や各種管理者等との関係構築などの点で「地先の課題」にも含まれます。

検討にあたっては、様々な立場のみなさまに参加していただき、課題解決に向けた意見交換を行ないます。尚、家下川における主な関係者、関係団体は、以下のとおりです。

関係団体（例）：矢作川水族館、家下川リバーキープズ、家下川を美しくする会
豊田市土地改良区、矢作川研究所、豊田市、愛知県、国土交通省
市民企画会議（家下川担当）：光岡 副部長、阿部氏（矢作川水族館）

(2) 家下川流域における主な課題と対応策（例示）

家下川モデル地区では、支川から見た魚の棲みやすい川づくりをテーマとして上下流問題を扱う。具体的には、以下の課題と対応策が考えられる。

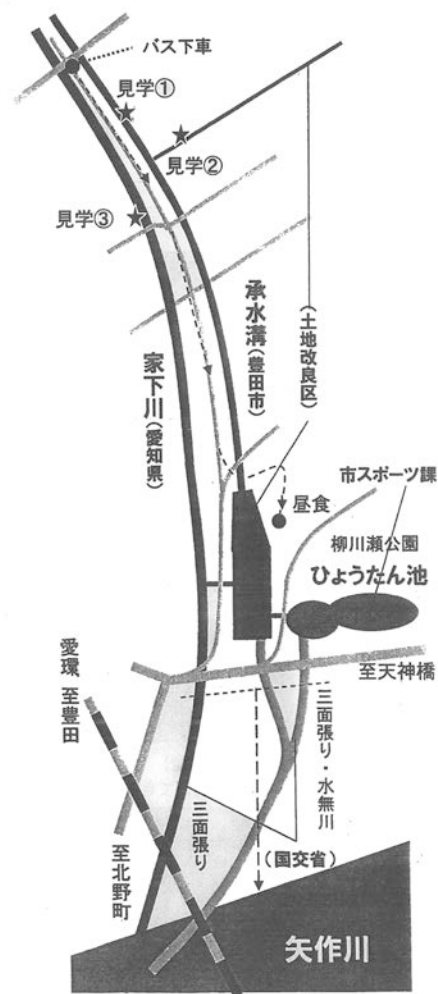
- ① 産卵場所が不十分（水草、草の根、石、砂底、砂泥底、二枚貝など）
- ② 幼魚の餌場、生育場所が不十分（田んぼ、湿地、流れの緩いワンドなど）
- ③ 水不足（流域の保水力の低下。生活排水の減少。パイプライン化などが原因）
- ④ 越冬場所（湧き水、水深のある場所などがない）
- ⑤ 矢作川との段差（平水時の遡上が困難）

※課題については、市民による精査が必要。

治水・利水・農地公園等の機能・用途・維持管理との関係・制約条件・過去の経緯を学びながら、議論している。「魚の棲みやすい川」を位置付けながら、家下川流域全体の情報共有の場として機能している。

【参考】解決手法の例示

- ① 産卵場所、生息場所の改善
 - ・ 農業用水路への草植え
 - ・ 水田魚道の設置
 - ・ 家下川の環境改善
 - ・ 家下川旧河道の竹林伐採 など
- ② 水不足の解消、越冬場所の確保
 - ・ 家下川、浄水溝、長池（ひょうたん池）が自由に移動できる工夫の検討
 - ・ 宗定川の水量確保 など
- ③ 家下川との段差解消
 - ・ 家下川合流点との段差解消 など



■モデル地区の概要

(3) WGの開催予定

家下川モデルWGは、今年度に計4回の実施を予定しており、5月と7月に活動を実施してきました。今後、10月と12月に活動を予定しています。

【スケジュール（案）】

第1回WG：情報共有＋課題洗出し（現地＋話し合い）	5月18日（済）
第2回WG：情報共有（管理者）、対策手法の検討、意見調整	7月15日（済）
第3回WG：対策手法の検討または実証、意見調整	10月26日（予定）
第4回WG：活動の振り返り（本川モデルと合同WG）	12月（予定）

(4) これまでの取り組み状況報告

① 家下川モデル1回（5月18日実施）

第1回川部会WG（家下川モデル1回）では、現地調査と意見交換の中で、家下川における活動団体や管理者が抱える課題や活動内容について、情報共有し、課題の洗出しを行った。WGで話し合われた内容は以下のとおりである。

- 現地調査箇所では、活動内容や課題について意見交換がなされ、情報共有が進んだ。
- 一方で、課題解決に向けての現状把握を進める必要があることが認識された。
- 次回までに、視察した現場の課題と解決策について、またその背景についての情報提供、質問等を提出することとした。
- 次回、管理者である愛知県から、家下川の計画や将来像等について伺うこととした。



越流堰上部



水路マス設置箇所



水田魚道設置箇所

② 家下川モデル2回（7月15日実施）

第3回川部会WG（家下川モデル2回）では、管理者等からの情報提供と質疑応答を行なった後、意見交換を行なった。意見交換の中で、家下川モデル1回に引き続き、本川における活動団体や管理者が抱える課題や活動内容について、課題の洗出しを行なった。WGで話し合われた主な内容は以下のとおりである。

- 管理者等からの情報提供で前回明らかでなかった家下川周辺の計画等について情報共有がなされ、家下川の現状と課題について意見交換がなされた。
- 前回と同様、課題解決に向けての現状把握（家下川や水路の流量、地下水の状況等）を進める必要があることが認識された。
- 家下川と承水溝、ひょうたん池等の水位や洪水時の管理方法等について、管理者間で確認し、次回に情報提供することとした。



会場の様子



情報提供の様子



意見交換の様子

■ 課題と解決策の整理 (参考)



■ : 現在、実施中 ■ : 本日実施 □ : 未実施

○ : 今年度 ◎ : 次年度以降

4. 地域部会「川部会 WG（本川モデル）」について

(1) 検討方法

矢作川本川から見た「魚の棲みやすい川づくりをテーマにした上下流問題」と「地先の課題」をテーマとして扱うこととし、**鵜ノ首橋下流（36.8km 付近）～越戸ダム付近をモデル地区に設定**し、情報共有や解決手法の検討を行います。

検討にあたっては、様々な立場のみなさまに参加していただき、課題解決に向けた意見交換を行ないます。尚、矢作川本川における主な関係者、関係団体は、以下のとおりです。

関係団体（例）：矢作川森林塾、矢作川水族館、矢作川漁協、天然アユ調査会
明治用水土地改良区、中部電力、矢作川研究所
豊田市、愛知県、国土交通省 等
市民企画会議（本川担当）：裕 部会長、宮田氏 or 内田氏（矢作川研究所）

(2) 本川モデル地区の主な課題と対応策（例示：p 9 参照）

本川モデル地区では、本川から見た魚の棲みやすい川づくりをテーマとして上下流問題を扱う。具体的には、以下の課題と対応策が考えられる。

- ①外来種対策（オオカナダモ、アメリカナマズ）
- ②河床のアーマーコート化と砂面上昇（カワシオグサの繁茂、オオカナダモの繁茂、河床平坦化：アユの採餌・産卵環境の悪化）
- ③遡上アユ対策（移動阻害、産卵場の減少など）
- ④魚の生息環境の悪化（河床掘削後の水際付近の多様な場の減少）
- ⑤河畔林・河岸の管理（竹の管理、河床・河岸掘削後の河岸の食性管理等）

※ 課題については市民による精査が必要です。

【参考】解決手法の例示

- ① 外来種対策
 - ・ オオカナダモの駆除、有効活用／アメリカナマズの調査 など
- ② 河床表面の状態調査（材料、オオカナダモ、カワシオグサの調査 など）
 - ・ 土砂動態：河床地形・河床材料の現状の調査とあり方、対策の検討
- ③ 遡上アユ対策
 - ・ アユの遡上に配慮した堰等の運用（水量の確保）、施設改善（魚道等）の可能性
 - ・ 天然アユ保全：汲み上（下）げ放流、産卵場の造成 など
- ④ 魚の生息環境の改善（試験施工後の順応的管理）
 - ・ 河床掘削後の浅瀬の形成や、水際付近でのワンドの造成／砂州の再生など
- ⑤ 河岸・河畔林の管理（試験施工後の順応的管理）
 - ・ 河畔植生・掘削後河岸の対応後の様子を見ながら、修正検討

本川モデル地区を「鵜ノ首橋下流(36.8k 付近)～越戸ダム湖付近」とします。

下記に示す理由から、図に示すような区間を対象として検討することを提案します。

上流端の範囲設定について(越戸ダム湖付近)

- オオカナダモの繁茂(粗密ともに)やアメリカナマズ等の外来種対策が必要。(ダム湖から供給されている可能性有り)
- 河床のアーマールコート化(河床表層の礫の粗粒化)によりカワシオグサが発生し、天然アユの釣り場利用等への影響が懸念される。



中流域の課題について

- 久澄橋～豊田大橋区間(旧豊田市街)については、砂河川化とあわせて、オオカナダモが繁茂している等、生物生息環境からの課題がある。
- 久澄橋より下流の左岸にて、国土交通省によるせせらぎ整備などが行われており、生物の生息環境の整備が行われている。
- 高水敷のレクリエーション利用がされているものの、水際へのアプローチなどの面では課題がある。(※河川空間の利用・保全のあり方(地先の課題)の検討箇所)

下流端の範囲設定について(鵜ノ首橋付近まで)

- 国土交通省の河川整備計画短期整備計画(河床掘削)に位置づけがある。(36.8k～39.1k)

	樹木伐開(河川整備計画より)
	河道掘削(河川整備計画より)
	オオカナダモ分布(密)
	オオカナダモ分布(疎)
	アユの産卵場(河川整備計画より)
	整備ゾーン(空間管理計画より)
	自然利用ゾーン(空間管理計画より)

(3) WGの開催予定

本川モデルWGは、今年度に計4回の実施を予定しており、6月に活動を実施してきました。今後、8月、9月、12月に活動を予定しています。

【スケジュール（案）】

第1回WG：情報共有＋課題洗出し（現地＋話し合い）	6月23日（済）
第2回WG：情報共有（管理者）、対策手法の検討、意見調整	8月23日（予定）
第3回WG：対策手法の検討または実証、意見調整	9月21日（予定）
第4回WG：川部会WGの活動の振り返り（3モデル）	12月（予定）

(4) これまでの取り組み状況報告

① 本川モデル1回（6月23日実施）

第2回川部会WG（本川モデル1回）では、現地調査と意見交換の中で、本川における活動団体や管理者が抱える課題や活動内容について、情報共有し、課題の洗出しを行なった。WGで話し合われた内容は以下のとおりである。

- 現地調査では、河道掘削事業の概要、河岸・河畔のあり方における官民連携の取り組み状況等について説明があり、情報共有が進んだ。
- 意見交換では、主に河道掘削箇所今後の取組み、オオカナダモ等の外来生物について、その現状と課題解決策について話し合われた。
- アユの生息等について、土砂動態（河床地形・材料等）について情報交換がなされた。動態やノウハウの客観的な情報共有がまだ十分と言えず継続課題である。
- 今後WGを進めていく上で、矢作川の環境の目標をどこに持っていくかを共通の課題とし、目標に対しての差の原因は何かということを考えていくこととした。



高水敷上からワンドを望む



3割勾配の法面の状況



実験的に移植した木

5. 地先の課題WG

(1) WGの進め方

- ・ 河川の維持管理活動、河川環境（美化・自然環境）の保全活動、河川空間の利用、啓蒙・文化活動等にかかわる課題と対象としている。主に地域の人々と川との関係を中心になる課題。
- ・ 他モデル検討中に、地先の課題WGとしての検討課題、候補箇所等を検討する。
- ・ 上記を踏まえ、**市民企画会議**を開催して、**検討課題・箇所、及び視察コースの設定を明確**にする。
- ・ **バスツアー（第1回、第2回の2日間、11月予定）の実施**により、地先の課題の確認と解決手法の検討を行なう。

(2) 検討体制（案）

全体調整・企画支援：小澤 副会長（今後の活動を通じて検討）

課題検討・実施：課題に応じて解決手法を検討・実施するメンバーを選定します。

検討メンバー（例）：矢作川森林塾、西三河野鳥の会、矢作川水族館、矢作川漁協
矢作川研究所、豊田市、愛知県、国土交通省

(3) 地先に関わる主な課題と対応策（例示：p12参照）

地先の課題WGでは、活動を実施上の課題テーマとする。具体的には、以下の課題と対応策が考えられる。

①活動場所に関する課題

- ・ 活動場所の不足、活動環境の悪化

②水際へのアプローチの課題

- ・ 水辺へアプローチできる場所が限定的

③活動推進上の課題

- ・ 相互調整の不足／情報・人材・資金の不足／活動拠点の不足

※課題については市民による精査が必要です。

【参考】解決手法の例示

① 活動環境の改善

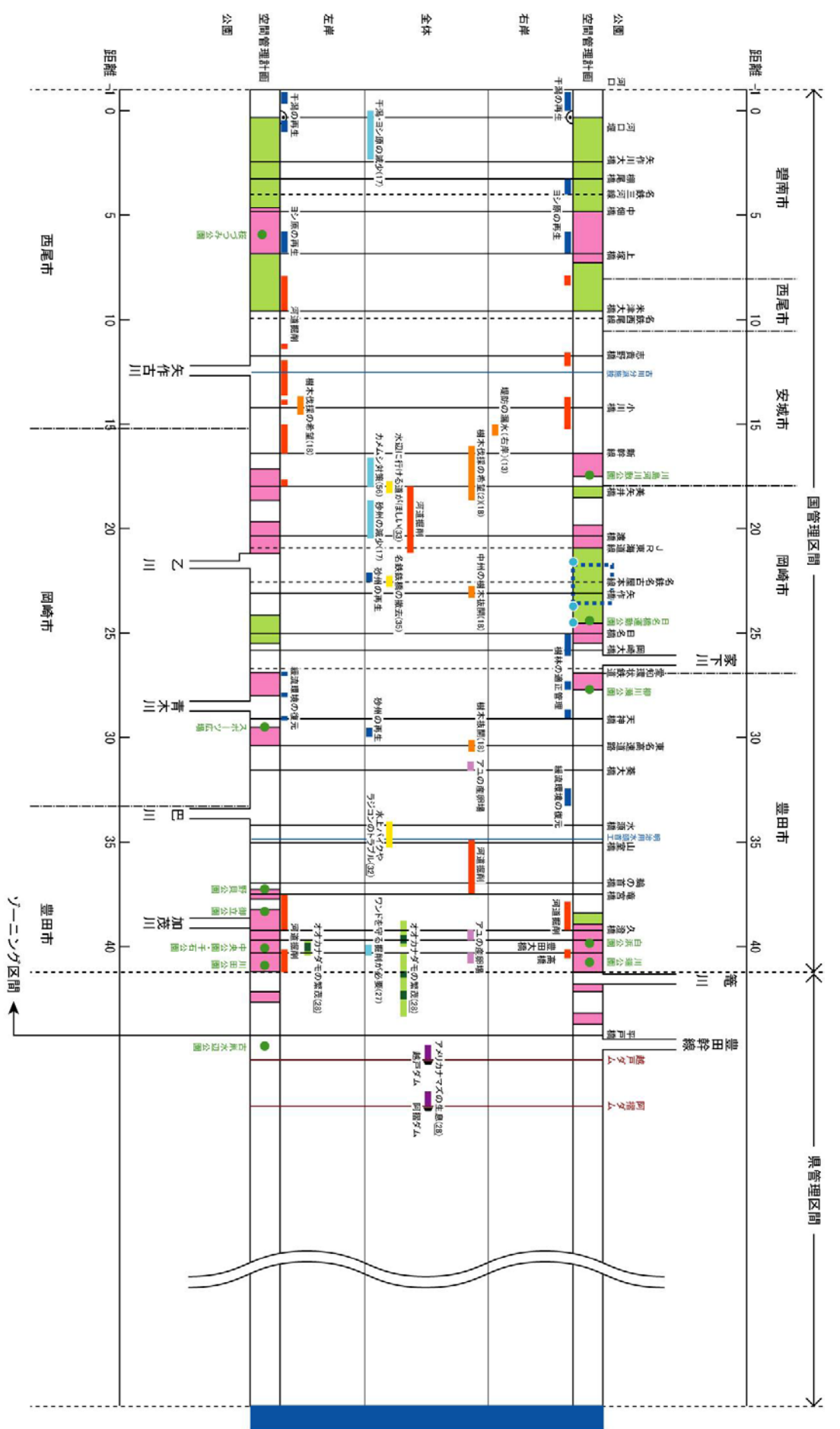
- ・ 浅瀬、ワンドの造成／砂州の再生／干潟・ヨシ原の保全・再生 など
- ・ 久澄橋下流のせせらぎ整備や河道掘削 ・ カメムシ対策

② アプローチの改善

- ・ 水際へのアプローチ整備 ・ 河畔林の伐採・維持管理

③ 活動推進方策の検討

- ・ 活動支援ノウハウの収集・情報共有 ・ 活動拠点の検討
- ・ 相互調整方法（インターネット等の活用）の検討
- ・ マナー啓発、河川利用ルールの検討
（水上バイクやラジコンとのトラブル解消、ゴミ問題など） など



■地先の課題例

凡例	
	自然利用ゾーン (空間管理計画より)
	整備ゾーン (空間管理計画より)
	河川環境(河川整備計画より)
	治水対策(河川整備計画より)
	アオカサマの生息 (矢作川流域アオカサマ調査報告書2008.12より)
	アオカサマの繁殖場(河川整備計画より)
	河川利用の課題 (矢作川流域空間管理計画より)
	公園
	水辺の楽枝
	生物多様性に関する課題 (過去の調査等で出された課題のうち場所を特定できるもの)
	治水対策に関する課題 (過去の調査等で出された課題のうち場所を特定できるもの)
	アオカサマの繁殖場 (過去の調査等で出された課題のうち場所を特定できるもの)
	河川利用に関する課題 (過去の調査等で出された課題のうち場所を特定できるもの)

※ 番号文末の()は、「矢作川流域における課題」の小分類番号。
()内の数字の「_」(アンダーバー)は、「1A(地先の課題)」として分類されたものを示す。

6. これまでの会議で決まったこと（参考）

（1）第2回地域部会

- まずやってみよう課題として「魚の棲みやすい川づくりをテーマに上下流問題」と「河川空間の利用・保全のあり方として地先の課題」について扱うこと
- モデル地区毎にワーキンググループ（WG）を立ち上げ、月1回程度開催すること
- WGは、現地見学と話し合いをセットにするなど、議論の収束に向けた工夫をすること
- 既に市町や県、関係団体が関与している協議会等も多数あるので、今後の連携を視野に入れて調整すること
- WGの企画は、市民企画会議がイニシアチブをとってやっていくことを基本とするが、関係団体・行政等の方々にも積極的に参加していただくことを目指す

（2）川地域部会 第2回企画会議

川地域部会第2回企画会議では、今後、実施していく内容について、以下のような内容が話し合われた。

【3WGの担当者】

- 家下川モデル地区WG：光岡 副部長、阿部氏（矢作川水族館）
- 本川モデル地区WG：裕 部長、宮田氏 or 内田氏（矢作川研究所）
- 地先の課題WG：小澤 副部長、〇〇（今後の活動を通じて検討）

【活動スケジュール】

WG名	内容	日時
家下川モデル地区 第1回WG	現地視察＋活動方針の確認	5月18日 13～17時
本川モデル地区 第1回WG	現地視察＋活動方針の確認	6月23日 13～17時
家下川モデル地区 第2回WG	第1回WG時に設定	7月15日 13～17時

【WGの活動内容】

- 本川モデル地区では、現地調査候補として、アーマーコート化の状況、豊田大橋付近、河畔林の伐採箇所、籠川合流点などが挙げられた。
- 地先の課題については、場所の課題だけでなく活動推進上の課題についても取り上げるものとした。

【その他】

- 今年度末には、地域部会にて、ワーキングの成果を見せることを意識しながら活動を行うものとする。
- 年間を通した川の状況（イベント、アユの遡上等）や活動状況をグループカレンダー等により情報共有することが提案され、今後、作成を検討していくものとした。

7. 流域圏全体をつなぐ諸量との関係（川部会長からの報告）

各 WG は各地区や地先における課題について取り組むが、以下の諸量については、山・川・海といった上下流関係において、流域圏全体との関係性が重要である。

川の上下流を通しては、

水（水量、水収支）、
土砂、
物資（栄養分や濁りなどの水質）や水温（熱）、
ゴミ・流木、
その他（人々の上下流間の意識の作用、等）

のつながりや、流れる量・収支が基礎的な量となっている。そして、以下のような検討が進められることがよりよいと考えられる。

現状の把握情報
情報共有
目標像・数値的な目標の現状の確認・検討
現況との差の認識
改善の方法の検討

特に水と土砂の水系全体でのありようについては情報共有が進んでいないが、土砂については7月によく懇談会全体の「勉強会」において現在の検討状況（国交省）について情報共有の途についたばかりであり、各 WG（特に本川 WG）において重要な土砂動向についての水系全体と地区での状況の整合した説明ができるかどうか、という検討はまだ行っていない。

現在は部会内での活動が中心となっている時期にあることもあり、流域圏全体、あるいは川部会内でのこうした数量的な検討・情報収集・情報共有は停滞しているが、今後、各関係機関の協力を得て進める必要があると考える。